

基準9 教育の質の向上及び改善のためのシステム

(1) 観点ごとの分析

観点9-1-①： 教育の状況について、教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積され、評価を適切に実施できる体制が整備されているか。

(観点に係る状況)

教育活動の実態を示すデータや資料の管理収集については、以下のように分担がなされている。

○ 教務主事室及び学生課教務係は、教育課程の編成及び実施、学校行事、入学・退学・転学等の許可、進級及び卒業の認定、出欠席の扱い、指導要録の作成、教科書、その他図書及び教材の扱い等に関するデータや資料の収集・保存を行っている。

例として、教務係は各教員から提出された担当する教科の学生の学業成績、出席日数の集計、資料作成を行い(資料9-1-①-1)、前期末(8月)及び学年末(3月)の成績会議に全学生の成績資料を提出している。成績会議では成績資料を基に進級規程(資料9-1-①-2)に従って学生の進級、卒業及び修了に関する審議を行っている。

○ 教務係では定期試験の解答用紙及び実験レポートなど成績の根拠となる資料を保存収集している。解答用紙は電子ファイル化し、原本は教員から学生に返却される。保存した電子データは、教務係のサーバー上で保管され必要時に閲覧できるようになっている。(資料9-1-①-3)

○ 教務主事室では、学生の授業に対するアンケート(資料9-1-①-4)を平成15年度より実施している。集計した結果(資料9-1-①-5)を教員個人に配布し、結果に対する授業の対応等について改善実施計画書(資料9-1-①-6)の提出を求め、改善を促している。また、改善計画等の参考のため、教員に授業評価アンケート及び改善計画書のまとめ(資料9-1-①-7)を配布している。さらに、年度末には、実施計画が実行されたか確認するため、改善実施報告書(資料9-1-①-8)を提出させている。学生による授業評価アンケートの処理の流れは資料(9-1-①-9)のとおりとなっている。また教員全員の評価をまとめた資料をもとに、評議員会では、教務主事が委員に対し、教育方法の改善について説明し、意見を伺っている。

○ 学生主事室及び学生課学生係は、学生の課外教育、集団指導、奨学金関係、キャリア教育(就職等)、学生会活動、保健指導、厚生福祉等に関するデータや資料の収集・保存を行っている。例として、学生係では、学生の就職進学状況を年度毎に集計、資料として就職担当教員及び学生に提供し、さらに本校ホームページで公開している。(資料9-1-①-10, 11)

○ 地域協力委員会及び総務課社会連携係では公開講座や出前授業など学外の教育活動に関するデータの収集を行っている。例として、社会連携係は公開講座及び出前授業の受講者の募集、参加人数の把握並びに受講者に対する満足度アンケート(資料9-1-①-12)を行って集計、その結果を地域協力委員会の資料として提出、審議して次年度の開講計画の資料としている。(資料9-1-①-13)

(分析結果とその根拠理由)

本校では、各主事室及び事務部において教育活動に関する各種のデータを収集・蓄積して各委員会や関係教員及び学生への資料として提出・利用できる体制を整えていることがわかる。さらに教育に関するデータは各種委員会などでの評価する体制も整っているといえる。

観点9-1-②： 学校の構成員及び学外関係者の意見の聴取が行われており、それらの結果をもとに教育の状況に関する自己点検・評価が、学校として策定した基準に基づいて、適切に行われているか。

(観点に係る状況)

学生による授業評価については、学生を対象に「授業評価アンケート」(資料9-1-①-4)を実施し、授業に対する満足度を調査している。一方、学校の構成員及び学外関係者に関しての意見聴取手段としては、ホームページに「大島商船高等専門学校へのご意見」(資料9-1-②-1)ページを設置し、学生に対しては、学生総会では「学生アンケート」(資料9-1-②-2)を実施している。

「授業評価アンケート」(資料9-1-①-4)実験実習の各テーマを含む全ての授業科目において実施し、これらを集計し、学生の授業に対する満足度を毎年調査し、グラフ化している(資料9-1-①-5)。さらに、全教員が授業評価に基づいて「授業評価に対する改善実施計画書」(資料9-1-①-6)を提出し、校長室でとりまとめたもの(資料9-1-①-7)を教員に配布している。また、年度末には、「授業評価に対する改善実施報告書」(資料9-1-①-8)を提出させている。この結果、学生の授業評価の満足度は、毎年着実に向上し、結果として学生の意見が授業に取り入れられる形となっている。「学生アンケート」は、学生会が主催する学生会総会前に学生に対して必ず実施し、学生会の要望として集約している。このアンケートの中から、学生の要望が高く実施可能なものに関して、学生主事室・学生課で検討し対処している。

一方、高専は修業年限が5年と長く、また、本校は3学科構成であり他高専に比べ学生や教職員の数も少なく、学生と教職員との関係が密で、学生も教職員に対して意見を言いやすい雰囲気にある。このため、毎週実施するホームルームや教員各自が設定しているオフィスアワー(資料9-1-②-3)からも十分な意見を聴取することができる。

また、保護者からの意見としては、年1回、学級懇談会に併せ、保護者との個人面談も実施しており、その際にも、意見を伺うことができるようになっている。(資料9-1-②-4)

学生相談室及び学生課学生係では、新入学生及び保護者に対して、新入生保護者アンケート(資料9-1-②-5)や学生相談室アンケート(新入生用)(資料9-1-②-6)を実施し、その結果について集計し、入学後の学生指導や学級懇談会などの資料として役立てる取り組みが採られている。

学外関係者の意見は、主に卒業生、就職先企業へのアンケート及び地元の企業・行政・教育関係者により構成される評議員会から聴取している。また、学外ホームページに「大島商船高等専門学校へのご意見」を設置しており、学外の一般市民からも学校に対する意見が聴取できる体制を整えている。

さらに、卒業生が在学時に身に付けた学力や資質・能力等に関する意見を聴取する取組みとして、最近では平成24年度から平成25年度にかけて卒業生及び就職先の企業に対してアンケート調査を実施した。卒業生及び企業を対象としたアンケートの調査内容及び結果は(資料9-1-②-7)のとおりである。平成26年1月7日開催の教員会議において教員に報告した。

(分析結果とその根拠理由)

学生の授業の評価に対しては学生を対象に授業評価アンケートを実施し、授業に対する満足度を調査している。一方、学習環境に関しては、「大島商船高等専門学校へのご意見」の設置と学生総会での学生アンケートを実施し、意見を聴取している。更に、毎週実施するホームルームや教員各自が設定しているオフィスアワーからも十分な意見を聴取することができている。

以上のことから、学生の意見の聴取は様々な形で十分に行われている。

アンケートと評議員会により学外関係者の意見を聴取している。卒業生を対象としたアンケートの回答では、卒業生の視点に基づく本校の教育内容についての意見が寄せられている。企業を対象としたアンケートの回答では、企業の人事担当者から本校卒業生の資質や能力についての意見が寄せられている。評議員会の意見は評議員会報告書に記載され、全教職員に配布されており、各教職員が今後の教育内容等の改善に役立てている。

以上のことから、学外関係者の意見を聴取して、教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されている。

観点9-1-③： 各種の評価の結果を教育の質の向上、改善に結び付けられるような組織としてのシステムが整備され、教育課程の見直し等の具体的かつ継続的な方策が講じられているか。

(観点に係る状況)

本校の教育活動を推進し、その質の向上・改善を行うために、「学生による授業評価アンケート」、「教員の教育業績等評価」、「教員による授業評価アンケート」の三つの取組みがなされている。

「学生による授業評価アンケート」については、前述したように、学校全体で取り組んでおり、評価結果が各教員に返却されるとともに、その結果に基づき、授業評価に対する改善計画書及び改善報告書の提出が義務付けられている。

「教員の教育業績等評価」については、その趣旨が明確に示され(資料9-1-③-1)ており、全教員が理解したうえで、毎年実施されている。この教育業績等評価は、三部構成となっている。第1部は「教員の自己評価」(資料9-1-③-2)であり、授業に関すること、FD活動・地域貢献に関すること、学生生活指導に関すること及び海外経歴も含めた経歴関連からなっている。第2部は「教員による相互評価」(資料9-1-③-3)であり、教員同士の相互評価を行なっている。第3部は「学生による教員の評価」(資料9-1-③-4)であり、教育活動やクラブ活動などにおける取り組みに対して、学生が教員を評価するものである。集計されたこれらの結果を基に、顕著な業績を上げている教員を顕彰するとともに、教育の充実・向上を目指している。

「教員による授業評価アンケート」については、平成25年度から開始した制度であり、教員が行う授業を他の教員が参観し、項目ごとに評価するものである。アンケート内容は、(資料9-1-③-5)のとおりである。また、このアンケート集計結果を、授業を行った教員に知らせ、感想及び改善点報告書(資料9-1-③-6)を提出させている。

(分析結果とその根拠理由)

「学生による授業評価アンケート」、「教員の教育業績等評価」、「教員による授業評価アンケート」が学校全体で取り組まれており、これらの結果は、教育の質の向上、改善に結び付けられている。したがって、教育や学生指導など、すべての面において具体的な方策が講じられている。

観点9-1-④： 個々の教員は、評価結果に基づいて、それぞれの質の向上を図るとともに、授業内容、教材、教授技術等の継続的改善を行っているか。また、個々の教員の改善活動状況を、学校として把握しているか。

(観点に係る状況)

個々の教員は、学生による授業評価の各項目における評価結果を踏まえ、具体的な改善計画等を校長に報告し、さらに、年度末に改善実施報告書を提出することとなっており、継続的な改善を行なっている。また、個々の教員から提出された改善方法は、授業評価アンケート及び改善実施計画書のまとめ(資料9-1-④-1)に示すようにひとつにまとめられ、全教員に配布、公開されている。

また、「教員による授業評価アンケート」については、教員が行う授業を他の教員が参観し、項目ごとに評価するものであり、アンケート集計結果を、授業を行った教員に知らせ、感想及び改善点報告書(資料9-1-③-6)を提出させている。

(分析結果とその根拠理由)

学生からの授業評価アンケートに対する改善状況は、全教員に配布、公開されている。(資料9-1-④-1)

以上のことから、個々の教員は、評価結果に基づいて、それぞれの質の向上を図るとともに、授業内容、教材、教授技術等の継続的改善を行なっており、また、個々の教員の改善状況を学校として把握している。

観点9-1-⑤： 研究活動が教育の質の改善に寄与しているか。

(観点に係る状況)

教員の研究活動については、本校ホームページに「研究シーズ集」等として、その研究成果等を掲載して、公開している。

各教員は、それぞれの研究の専門分野に関連した授業を担当するとともに、準学士課程の卒業研究あるいは専攻科課程の特別研究において、自己の研究上の専門分野に即したテーマで学生の研究指導を担当し、卒業研究については、学生に、学内において卒業研究発表会で発表させており、特別研究については、専攻科生に、中国四国地区高専専攻科研究会及び山口県内3高専専攻科中間発表会において発表させている。この研究成果をもとに学生が学会等で成果発表をしているケースもある。この学会発表等において、学生が幾つかの優秀賞等を受賞している(資料9-1-⑤-1)。教員も高専機構の論文集「高専教育」に例年、論文を投稿しており、本校教員も高専教育論文賞を受賞している。(資料9-1-⑤-2)

また、年に1回、学内において、教員の研究発表会を行い、多くの教員が聴講している。(資料9-1-⑤-3)

さらに、本校は、研究活動を通して教育の質向上に大きな力を注いでいる。この成果として、文部科学省が行っている大学間連携共同教育推進事業において、富山高専をはじめとする5商船高専で、平成24年度に1件、「海事分野における高専・産業界連携による人材育成システムの開発」が採択された。(資料9-1-⑤-4)具体的には、平成24~28年度の5年間において、①新たな海事技術者に必要な資質の涵養、②新たな海事技術者に不可欠な知識・技能の育成、③新たな海事技術者を確実に継続的に育成し得る質の高い海事教育システムの3種のサブプロジェクトを企画・実施し、新たな海事人材を育成し得る質の高い教育システムの開発に取り組み、その成果を海運界、他海事教育機関や他高専に広く紹介しようとするものである。

(分析結果とその根拠理由)

教員の研究活動が直接卒業研究及び特別研究に反映される学生の学会発表等において、学生が幾つ

かの優秀講演賞を受賞している。また、研究活動を通して教育の質向上に大きな力を注いでいる。

この成果として文部科学省が行っている大学間連携共同教育推進事業において、平成24年度に1件（研究期間は平成24～28年度）が採択された。

以上のことから、研究活動が教育の質の改善に寄与しているといえる。

観点 9-2-①： ファカルティ・ディベロップメントが、適切な方法で実施され、組織として教育の質の向上や授業の改善に結び付いているか。

（観点到係る状況）

ファカルティ・ディベロップメント活動は、現在、平成18年度に設置されたFD委員会（資料9-2-①-1）が中心となって検討している。平成16年度より校長室が主体となって始めた「学生による授業評価アンケート」を引き続き実施しており、（資料9-1-①-4）のアンケート用紙を実験実習の各テーマを含む全ての授業科目において配布し、これらを集計し、学生の授業に対する満足度を毎年調査し、グラフ化している（資料9-1-①-5）。さらに、全教員が授業評価に基づいて「授業評価に対する改善実施計画書」（資料9-1-①-6）を提出し、とりまとめたもの（資料9-1-①-7）を教員に配布している。また、年度末には、「授業評価に対する改善実施報告書」（資料9-1-①-8）を提出させている。この結果、学生の授業評価の満足度は、毎年着実に向上し、結果として学生の意見が授業に取り入れられる形となっている。

他の教員の授業改善についての具体的な取り組みを参照できるようになったことは、各自の授業改善策を探る上で有益ばかりでなく、授業についての情報交換を活性化し、優れた実践に学んでノウハウを共有する上でも役立っている。

FD委員会では、他にも、教員による授業評価（ピアレビュー）の計画・実施、卒業生へのアンケート・企業へのアンケートの計画・実施、FD講演会の計画・実施等を行っている。FD講演会については、平成25年度には神戸大学大学院人間発達環境学研究科教員を講師として招き「記憶研究者が実践する授業の工夫」と題して開催した。（資料9-2-①-2）

（分析結果とその根拠理由）

FD委員会を中心に、教員授業方法に関する評価が毎年定期的に行われ、更に、評価だけでなくこれらに対する改善報告書が作成され、授業改善についての具体的な取り組みを参照できるようになっている。また、卒業生へのアンケート・企業へのアンケートの実施及びその結果分析等の活動を行うことで、教育内容の検証を実施しており、ファカルティ・ディベロップメントについて組織として適切な方法で実施されている。

観点 9-2-②： 教育支援者等に対して、研修等、その資質の向上を図るための取組が適切に行われているか。

（観点到係る状況）

教育支援者のうち、事務職員については、独立行政法人国立高等専門学校機構、中国地区国立大学法人等、中国地区高等専門学校、その他各種団体が行う、職制別の研修（初任職員・中堅職員・係長・補佐・課長等）や学生関係、総務関係、財務関係等の研修に積極的に参加させている。（資料9-2-②-1）

技術職員については、技術支援センターに所属しており、上記の事務職員と同様に独立行政法人国

立高等専門学校機構、中国地区国立大学法人等、中国地区高等専門学校、その他各種団体が行う、職制別の研修（初任職員・中堅職員等）や技術職員研修に積極的に参加させているほか、技術研究会や技能講習会等にも参加させている。なお、技術職員の研修会・講習会への参加状況及び資格取得状況（資料9-2-②-2, 3）のとおりである。

（分析結果とその根拠理由）

教育支援者（事務職員及び技術職員）の資質向上を目的として、学内外で開催される各種の研修会、講習会・研究会等に積極的に参加させており、教育支援者に対しての研修等その他資質向上を図るための取組みを適切に行っている。

（2）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

- ・教育活動の実態を示すデータや資料は、電子ファイルとして収集・保管されている。
- ・学生の意見の聴取は、授業評価アンケート、学生相談室、意見箱、ホームルーム、オフィスアワー等の様々な方法を用いて行われている。
- ・教員は、授業評価の結果を踏まえ、具体的な改善方法等を校長に報告し、翌年度の授業でそれを実践するなど継続的な改善を行っている。
- ・研究活動を通して教育の質向上に努めた結果、文部科学省が公募している大学間連携共同推進事業に平成24年度（研究期間は平成24～28年度の5年間）採択された。
- ・卒業生及び卒業生就職先企業からのアンケート結果や評議員会等の外部の意見を教育内容の改善に役立てている。

（改善を要する点）

該当なし

（3）基準9の自己評価の概要

教育活動の実態を示すデータや資料は電子ファイルとして保管され、教育の実施状況に関しては、学生課教務係が学生の成績評価資料等を収集及び保管し、成績会議における学生の成績評価資料として提示できる体制をとっている。

各科目についての学生による授業評価アンケート及び学生の自己評価アンケートを実施している。さらに、学生相談室、意見箱、ホームルーム、オフィスアワー等の様々な方法で学生の意見の聴取が行われている。

また、個々の教員は、授業評価アンケートの各項目における評価結果を踏まえ、「授業評価に対する改善計画書」及び「授業評価に対する改善報告書」を作成して、具体的な改善方法等を校長に報告し、翌年度の授業でそれを実践するなど継続的な改善を行なっている。

ファカルティ・ディベロップメント活動の活性化を目指して、新たに教務主事を委員長としたFD委員会を設置して、卒業生を対象としたアンケート及び卒業生の就職先企業を対象としたアンケートの結果の分析等の活動を行っている。また、評議員会により学外関係者の意見を聴取しており、これらの意見を教育内容の改善に役立てている。